

事業所名		放課後等デイサービス あいてらすジュニア					支援プログラム		作成日		2026 年		1 月		5 日	
法人（事業所）理念			私たちは、ご利用者様ひとり一人が明るく輝く人生と「あなたらしい生活」ができるよう最善を尽くし、あなたと共に生きる明尽苑を目指します。													
支援方針			「社会に出て安心して生活できる療育」 ・ SST（ソーシャルスキルトレーニング）を通じて、仕事をする上で必要となるコミュニケーション能力を身につけます。また、困った時に助けを求める、作業の報告、周りの人と協力できる力を身につけます。 ・ ひとり一人にあった見通しを立てることにより、スムーズに場面や気持ちの切り替えができるよう支援していきます。 ・ ABA（応用行動分析学）を用いて、利用者様のひとり一人が暮らしやすくするために支援します。													
営業時間			（放課後）	10 時	0 分から	18 時	0 分まで	送迎実施の有無	○あり なし							
			（学校休業日）	9 時	0 分から	17 時	0 分まで									
			支 援 内 容													
本人支援	健康・生活	「自身のコンディションを把握し、社会生活の基盤となる自己管理能力を養う。」 ・ ABAを用いた習慣化：帰宅後の手洗い、荷物の整理などをスモールステップに分け、完了ごとに正の強化（褒める、やる気の動機づけ等）を行い、自立した身支度を促す。 ・ 健康状態の報告：「今日は疲れている」「お腹が痛い」など、自分の体調を職員に報告する練習を行います。														
	運動・感覚	「作業に必要な身体操作性と、感覚過敏・鈍麻への対処力を高める。」 ・ 就労準備動作：立ち仕事や座り仕事を想定した姿勢の保持、指先を使った細かな仕分け作業を通じた微細運動の訓練を行います。 ・ 環境調整の自己選択：騒がしい場所でイヤーマフを使用するなど、自分が集中できる環境を自ら選べるよう支援していきます。														
	認知・行動	「見通しを持って行動し、場面の切り替えをスムーズにする。」 ・ 視覚的構造化：1日のスケジュールを視覚提示（写真やカード）し、「次は何をするか」を本人自身が確認します。タイマーを活用し、「あと〇分で終了」の見通しを共有します。 ・ ABAによる行動変容：不適切な行動に対しては「代替行動（代わりに何をすべきか）」を提示し、適切な行動が選べた際に即時強化を行います。														
	言語 コミュニケーション	「仕事現場で必須となる「報告・連絡・相談」の基礎を習得する。」 ・ 仕事の報告：「終わりました」「次はどうしますか？」といった、作業完了時の決まったフレーズをロールプレイングで練習します。 ・ 援助要求（ヘルプサイン）：困った時や分からない時に、自分から「教えてください」「手伝ってください」と言いに行けるスキルの習得を行います。														
	人間関係 社会性	「他者と協力し、集団の中でのルールやマナーを理解する。」 ・ 共同作業：2人1組での片づけや制作活動を通じて、相手のペースに合わせる、役割を分担する経験を積みます。 ・ 公共マナーと社会的距離：挨拶の仕方、相手との適切な物理的距離（パーソナルスペース）、TP0に合わせた声の大きさの調整ができるよう支援します。														
家族支援			・ ノウハウを共有（ペアトレ）し、ABAに基づいた「褒め方」や家庭で使える「視覚スケジュール」を共有し、保護者の対応力を高めます。 ・ 将来設計：就労や自立に向けた情報を共有し、将来の不安を安心に変える伴走を行います。 ・ 面談や電話連絡等で悩みを聞き取り、預かり支援を通じて保護者の休息を確保し心理的サポートを図ります。					移行支援		実践的スキル：職場を想定した指示受けやマナーを「無意識にできる」まで訓練します。 関係機関への引継ぎ：本人の強みや特性をまとめた資料を作成し、次の支援先へ確実に繋ぎます。 自己決定の促進：見学や実習を通じ、本人が「自分で進路を選ぶ」経験をサポートします。						
地域支援・地域連携			・ 地域実践：外出活動を通じて、スーパーや公共施設でのマナーを実地で学んでいきます。 ・ 一貫性：学校や関係機関と「ABAの方針」や「視覚支援」を統一できるよう努めていきます。 ・ チーム支援：相談支援専門員や就労機関と連携し、地域全体で卒業後まで支えられる体制を構築します。 ・ 理解促進：地域の行事参加や情報発信を通じ、本人たちが暮らしやすい環境が構築できるよう努めます。					職員の質の向上		・ 「根拠ある支援」の徹底（ABA・SST研修）全職員がABAに基づき、感情ではなく「科学的な視点」で褒め方や助言を統一します。 ・ 実践的な振り返り（ケース検討）定期的に5領域の視点で「できたこと・課題」を共有し職員間のスキルの偏りをなくし、チーム支援を強化します。 ・ 「担当によって対応が違う」を解消し、全員が根拠のある質の高い支援が提供できる状態を目指します。						
主な行事等			・ マグロ解体ショー（法人内）・お花見・近隣の商業施設への社会体験 ・ 明尽苑祭り（法人内）生活介護事業所と合同で出店の担当を行う・クリスマス会・法人内高齢者事業との交流会・特別支援学校（つくし祭り）への参加													